

防災分野

研究領域

「持続可能な社会を支える防災・減災に関する研究」

採択年度	2017年	研究期間	5年間
研究課題名	産業集積地におけるArea-BCMの構築を通じた地域レジリエンスの強化		
研究代表機関	名古屋工業大学大学院工学研究科		
相手国	タイ王国	主要相手国 研究機関	チュラーロンコーン大学
研究課題の概要			
<p>本研究は、東南アジアの生産・物流拠点としてますます重要性が増す一方で、気候変動の激化による災害リスクの急増にさらされているタイ王国を対象とし、Area-BCM（地域型事業継続マネジメント）の枠組みを用いて、産業集積地の災害レジリエンスを向上させることを目的とする。具体的には、主要工業団地における利害関係者共通の情報共有と意思決定の仕組みを構築するために、①災害リスクのモニタリング・評価システム、②BIA（ビジネス・インパクト分析）に関わる分析手法の確立および情報共有のためのシステム、③Area-BCMの体制、の構築・運用を行う。また、これらの機能を統合したツール・キットを標準化することで相互運用性を確保、個別BCMの限界の補完、地域全体の災害レジリエンス強化を目指す。更にサプライチェーンで繋がるASEAN諸国等への展開により、災害リスクに備える広域な投資循環の形成も目指す。</p>			